

花草木

【シモツケ】

シモツケ（学名：Spiraea japonica、和名：シモツケ（下野）は、バラ科シモツケ属に分類される落葉低木の一種です。山地に生え、庭や庭園にも植えられます。

シモツケ属は約70種が北半球の温帯に分布し、シジミバナ（Spiraea prunifolia）、ユキヤナギ（S. thunbergii）、コデマリ（S. cantoniensis）など、多くの種が栽培されています。

また、シモツケは日本、朝鮮半島、中国に分布する落葉低木です。

育てやすく大きくならず、観賞期間もとても長く特に初心者におすすめの花木です。

花の色は、赤、白、ピンクで初夏に、小さな花が枝先に集まり、ふんわりと咲きます。葉は長めの楕円形でやや尖り、ギザギザしています。

シモツケの花言葉には「はかなさ」「無駄」「無益」「整然とした愛」「優雅な美しさ」「調和」「自由」など、多様な意味があります。



市内の公園で咲いていたシモツケの花です。

我が署のスタッフ 広島北部森林管理署 下野 蓮太 (しもの れんた) (令和7年度採用)

【現在取り組んでいる仕事は？】

業務グループで主に土木担当として、林業専用道新設の監督業務や来年度の事業に向け事務作業等を行っています。規定や規則の中で柔軟な対応等が行えるよう、知識や経験を積み上げられるよう日々を充実したものにしていきたいです。

【職場の雰囲気は？】

優しく知識・経験が豊富な上司が多く、相談しやすい環境が整っていると思います。また、各担当で協力し合いながら進めていく業務もあるため、署全体で仲が良くとても明るい職場です。

【林野庁の魅力は？】

森林の中で作業する時間が多く、木を間近で見ることができ、巨木やきれいに育っている立木を見ると、高揚感に包まれる瞬間を感じることができるのが林野庁の魅力の一つだと思います。また、転勤が広範囲なため、いろいろな都道府県で仕事ができることも魅力だと思います。



林業専用道新設工事の監督業務を実施しています。

森林事務所等紹介

金沢森林事務所 (石川森林管理署)

行政専門員 山田 浩之 (やまだ ひろゆき)

金沢森林事務所は、石川県の県都である金沢市に所在する石川森林管理署の庁舎内にあります。

国有林は、金沢市 (6,367ha)、白山市 (7,553ha)13,920ha を管理しており、官行造林地は、令和6年度をもって全て契約解除となりました。

国有林は、ほぼ全域で保安林 (主に水源かん養及び土砂流出防備) に指定されており、白山市の国有林は大部分が「白山国立公園」に指定されています。

また、保護林等についても「白山森林生態系保護地域」に蛇谷^{じやたに}国有林の一部、「犀川^{さいかわ}源流生物群集保護林」に犀川国有林、「千丈^{せんじょうだい}平生物群集保護林」に千丈ヶ峰^{せんじょうがみね}並びに蛇谷国有林が指定され、加えて「白山山系緑の回廊」を構成する国有林として、犀川^{さいかわ}、三方山^{さんぼうやま}、千丈ヶ峰及び蛇谷の各国有林が指定され、山岳における豊かな自然美を彩っています。

その中で代表的な国有林である蛇谷国有林は、自然に親しんでいただけるようレクリエーションの森の「蛇谷風景林」として整備しています。(日本美しい森 お薦め国有林)

蛇谷風景林内は、「白山白川郷ホワイトロード」(旧名：白山スーパー林道)が貫いており、急峻なV字谷を形成するとともにロード内には「ふくべの大滝」をはじめとした蛇谷八景と評される8つの滝があり、各展望台から様々な滝の姿を見ることができます。

また、ホワイトロードを抜けると「世界遺産五箇山白川郷」があり、魅力満点の観光ルートとなっております。ぜひ一度、訪れてみてはいかがでしょうか。



ホワイトロードから白山を望む



ふくべの大滝

シリーズ『国有林 最前線！』

造林の低コスト化に向けた取組み

～1年生コンテナ苗の活用に向けた検証～

奈良森林管理事務所

我が国の森林は、戦後造成した人工林が主伐期を迎えているものの、木材価格の低迷や造林費用の負担増などにより、主伐及び再造林が進まない状況にあります。

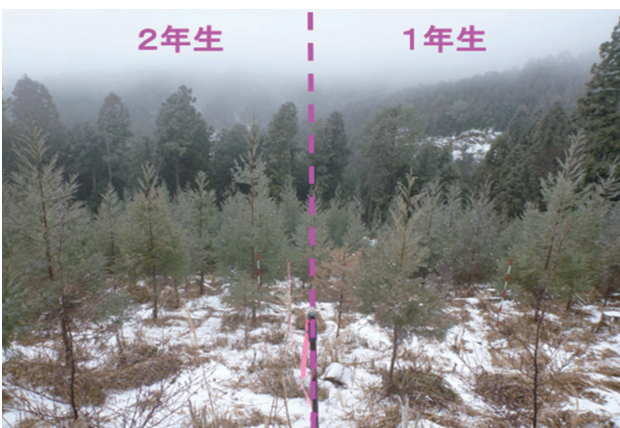
奈良森林管理事務所においても、造林コストの低減へ向けた取組を進めていますが、更なるコスト低減を模索するため、1年生苗に着目し、ひのきまた 桧股国有林に植栽試験地を令和元年6月に設定しました。

活着状況と成長量等を比較するため、1年生と2年生のスギ、ヒノキ苗木をそれぞれ50本ずつ植栽し、経過観察を令和6年11月まで行ったところ、以下のような結果となりました。

・苗木の活着については、第1成長期（植栽7カ月後）の状況では、両苗共に遜色ない（活着率96%）。



植栽試験地設定時の様子（桧股国有林）



1年生苗と2年生苗の成長状況（桧股国有林）

- ・成長量については、根元径、樹高ともにスギは1年生苗の方がやや上回った。
- ・形状比については、最終的には折れやすいとされる100以下に推移した。

以上により、1年生苗の山行苗として活用は可能と考えました。また、植付時（令和元年度）の生産者への聞き取り調査では、育苗コストも約3割低減できるとのことから、価格も同程度に抑えられる可能性があるうえ、2年で2回販売することで収益も向上し、生産者側にもメリットがあることが分かりました。



現地検討会の様子

今回の桧股試験地での検証結果は、令和7年度の現地検討会や局の研究発表会で結果を発表し、民国連携の一助となるべく取組を進めました。

今後も異なる試験地（令和3年度に設定した高取山試験地）のデータ収集と分析、造林費トータルでのコスト比較などを行い、1年生コンテナ苗の普及に向けてさらに取り組んでいきたいと考えています。

※本研究の詳細については、局ホームページの森林・林業交流研究発表会「発表集録」に掲載しています。

ホーム> 報道・広報> イベント情報> 森林・林業交流研究発表会

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/koho/event/gijyutukaihatu/20170324.html>



令和7年度 森林・林業交流研究発表会